# 天の夜曲

「心を植物に喩(たと)えてみりゃあええ。
もし心が植物なら、
当然根もあるし葉もあるし、
花も咲くじゃろう。」

2002年 新潮社

## Story

舞台は高度成長期に突入した昭和31年。熊吾の営む大阪の中華料理店は集団食中毒事件の濡れ衣を着せられ、閉店を余儀なくされるはめとなった。一家は富山へ移り住むが、新事業の共同出資者に対し不安を感じた熊吾は、一人大阪に戻り中古車事業の拡大に奔走する。事業は波に乗り始めるが、新たな事件が行く手を阻む。妻　房江の喘息発症を機に一時富山へ戻った熊吾は、家族三人の新しい生活を計画する。

## 『流転の海』シリーズ

『流転の海』シリーズは、宮本氏のライフワークとなる長編連作である。宮本氏の父、母、そして自分自身をモデルとしているといわれ、物語は主人公の熊吾に関わる個性的な人達を中心に、終戦直後の混乱の中、必死にもがき生きてきた人々の生きざまを描く。舞台は、時代が進むにつれ、故郷の愛媛、新天地を目指して移住した富山、そして再び大阪へと変遷すると同時に、父を中心に描かれる世界から、息子の目を通した物語へとなってゆく。

『流転の海』（流転の海 第一部）福武書店1984年7月・新潮社1992年11月
『地の星』（流転の海 第二部）新潮社1992年11月／『血脈の火』（流転の海 第三部）新潮社1996年9月
『天の夜曲』（流転の海 第四部）新潮社2002年6月／『花の回廊』（流転の海 第五部）新潮社2007年7月
『慈雨の音』（流転の海 第六部）新潮社2011年8月／『満月の道』（流転の海 第七部）新潮社2014年4月
現在、「新潮」（新潮社）にて、第八部である「長流の畔」が連載中。（2014年10月現在）

### 波にのまれ続けて

新天地を求めて住む場所を移り変え行く先々で事件に巻き込まれる熊吾とそれを見守る妻と息子。
早く穏やかな日々が訪れてほしいと思いつつ、まさに流転の海！と言いたくなる波乱の展開が、いつの間にか癖になってしまいます。

Review